

「伝わる」を支える取り組み



こども手話講習会



救急隊員向け研修



窓口職員向け研修

通訳者の派遣

病院や行政手続き、講演会などに手話通訳者・要約筆記者を派遣しています。

各種教室の開催

市民向けの手話教室や要約筆記教室を開催。また、小中学校での手話教室を通じて理解を広げています。

市職員の対応力の向上

救急隊員や窓口職員への研修を実施し、適切な対応ができる体制づくりを進めています。

手話で安心して 相談できる窓口

7月1日から遠隔手話サービスの利用環境を拡大。市役所本庁舎に加え、支所や一部の施設でも手話通訳を利用できます。

実際の救急現場でコミュニケーションを取ることができ、適切な病院へ搬送することができました。手話講習会を受講する前は、現場で意思疎通に苦労した経験があり、もっと早く受講していればよかったと感じました。



救急隊員 A



窓口職員 B

以前、窓口でろう者を対応した際、筆談ではうまく意思疎通ができなかったことがありました。今回の研修を通して、ろう者にとっては手話の方が伝わりやすい場合があることを知り、その理由を理解することができました。



前橋市消防局 救急隊

緊急時の備え

指定避難所や市内の全救急車にコミュニケーション支援ボードを配備しています。また、聴覚障害者向けの防災マニュアルを作成し、説明会を実施しました。

手話施策検討部会メンバー インタビュー

手話言語条例の施行をきっかけに、市自立支援協議会に「手話施策検討部会」を設置。部会では、市と関係者が協力しながら「市手話施策推進方針」を定め、手話への理解を広げることや利用しやすい環境づくりに向けて、検討・協議を進めています。

Q. 条例施行からの変化は？

条例施行後、手話教室や啓発活動、コミュニケーションボードの整備、防災・救急分野における支援の充実などの取り組みが進みました。また、手話がある者の大切な言語であることへの

理解が広がってきたと感じています。手話教室への参加や企業・団体での研修実施など、市民の関心が高まり、意識だけでなく行動にも変化が見られるようになりました。



前橋市手話通訳者協会
小畑さん

Q. 部会の取り組みで印象的なことは？



前橋手話サークル連絡会
関口さん

手話施策検討部会の活動で最も印象に残っているのは、救急隊員向け手話研修です。実際の緊急搬送時に役立つ研修を目指し、救急車用コミュニケーションボードも併せて作成しました。高齢のろう者によるシミュレーションや、手話サークルでの試作品の検証を重ね、当事者の意見を取り

入れながら1年以上かけて内容を検討しました。

ろう者や関係団体、行政が協力しながら創り上げたこの取り組みは、「市民の誰もが助け合い、支え合う社会を目指して」制定された条例の理念を体現するものであったと思います。

Q. 今後期待することは？

この10年間で、市民の手話への理解は少しずつ広がり、手話に触れる機会も増えてきました。しかし、まだ十分とは言えません。今後は、学校や職場、医療機関、災害時など、さまざまな場面で必要な情報保障が確保され、きこえる人もきこえない人も互いに理解し支え合える環境づくりが進むことを期待しています。



前橋市聴覚障害者福祉協会会長
山田さん

手話フェスタで手話の魅力を体験しよう！

9月23日(水)の「手話の日」に合わせて、K'BIX まえばし福祉会館で「まえばし手話フェスタ 2026」を開催します。手話を体験できるワークショップをはじめ、手話ペリクラフト、スタンプラリー、福祉機器の展示、手話コーラスの発表など、手話に関連するさまざまなイベントを実施します。

また、今年は手話言語条例施行10周年を記念して、手話エンターテイナーで俳優の那須映里さんによる基調講演も実施します。



那須 映里さん

プロフィール

東京都出身。手話エンターテイナー、俳優、国際手話通訳者として活動。ドラマ「silent」やNHK「みんなの手話」などに出演。